

■□ 第2分科会

山形置賜の自給圏構想とは何か、 生協の役割・可能性を考える

小池 恒男 (滋賀県立大学名誉教授)



I 座長解題

1. 上からの「バリューチェーン論」に 対抗して

くらしと協同の研究所の自主研究会「協同組合バリューチェーン研究会」という私どもの研究会は2014年6月に誕生いたしました。振り返って、当時の私どもの問題意識について確認しておきますと、おおむね以下のようなものではなかったかと思います。

『農林水産業・地域の活力創造プラン』(2013年12月決定、14年6月改訂)が現政権の農政の中心に位置づけられています。この『プラン』が打ち出した「農林漁業の成長産業化のためには需要と供給をつなぐバリューチェーンの構築が不可欠」¹⁾とする「バリューチェーン旋風」が吹き荒れていました。しかし肝心の「農林漁業の成長産業化」が、既存の担い手によるのではなく、企業の参入によってこそ実現可能という考えに基づくものですから、いわば「地域不在のバリューチェーン論」になりかねないという危惧を感じざるを得ないのであったわけです。加えて、JA全中までがこれにすり寄るような対案を打ち出したものですから(『JAグループ営農・経済革新プラン』2014年4月)、現場ではこれ

1) ここではバリューチェーンは、「付加価値向上のための連鎖」という意味でつかわれています。

らの「バリューチェーン論」は相当根強い違和感をもって受け止められていました。

それで私どももそこは単純に「協同組合が中心に座るようなバリューチェーン論」があってもいいのではないかと、あるべきではないかと考えたわけです。

2. 地域での生産者と消費者の関係づくり

一方、これまでの生協と生産者、地域との関係づくりの取り組みの流れについてみると、1960年代に始まったとされる産直、そして地産地消の取り組み(京都生協の場合、2009年6月『商品政策(産直政策)』の改訂、2012年6月『地産地消政策』の確立)、さらに「協同組合と地域との連携によるバリューチェーンの形成」という流れを確認しておきたいと思います。しかし、「流れ」と申しましてこれは決して「発展段階」としてとらえるべきものではなく、むしろすべてが同時並行的に、混在して流れているものとしてとらえる必要があるのではないのでしょうか。そして本日報告していただく「山形置賜自給圏構想」もまた、広義には、「もうけを最大限地域に還元させる地域経済の仕組みづくり」とみることができるのではないのでしょうか。

3. 事例に学ぶメゾ領域でのさまざまな取り組み

【1】国家戦略特区の農業特区として認定

された新潟市の「ニューフードバレー特区」、養父市の農業特区（いずれも2014年3月指定、もちろん反面教師として…）

- 【2】山形の置賜自給圏機構（構想）
- 【3】宮城の「食のみやぎ復興ネットワーク」
- 【4】ならコープの「吉野共生プロジェクト」の取り組み
- 【5】愛媛の株式会社地域法人「無茶々園」代表取締役 大津清次
- 【6】鳥取県畜産農協『東部地域畜産クラスター計画』
- 【7】（一社）オホーツク・テロワール（北海道紋別市）、身近なところに学ぶべきさまざまな類似の取り組みが展開されています。

Ⅱ 報告

井上肇（置賜自給圏推進機構専務理事）

はじめに、置賜自給圏構想の草案づくりの中心となった長井市のレインボープラン、高島町有機農業研究会、生活クラブやまがたの三者についての紹介がありました。紙面の都合上省略させていただきます。

1. 置賜自給圏の概要

資料「地域資源を基礎にした“置賜自給圏推進機構”に関する基本的な考え方」（P67 資料参照）にそってお話を進めてまいります。私は、置賜3市5町の自然の豊かさや資源は宝だと思っています。先ほどお話があったとおり、稲作農業がメインです。基本的な考え方は後でご説明しますが、目指すは食とエネルギーの自給と自立で、加えてそこに教育などいくつかの分野を位置づけています。いろいろなことが入ってきます。この1年間はそれぞれの部会で研

究を続けており、まだ事業化はしていませんのでほとんど赤字状態です。

学校給食の現場でどのくらい地元のものを食べているかを調査していますが、意外にも米沢地区と小国町、高島町では地元のものを使っていました。給食の献立を立てる方たちに地元志向の方が多く、その人たちが一生懸命、運動をしているからです。直接、地元の生産者の人と交渉し、欠品などがない限り、できるだけメニューを変更しない努力をされています。ただ産直でやるとクレームが来るのだそうです。学校給食には利権があって、地元の八百屋や流通業者を通さないとそこからクレームが来るので、伝票上はそのような形をとっていますが、事実上は産直に近い形です。米沢市の場合ですと、我々の運動の甲斐があったのかどうか分かりませんが、現場では食器洗いは全部、石鹸です。合成洗剤は一切使っていません。

エネルギーについては、田んぼや畑、特に休耕田には、太陽エネルギーのきんきらが目立っていますが、これでいいのかと思うぐらい景観が悪いですね。間もなく長井に、バイオマスの大きなエネルギー施設ができるのですが、置賜地区の山の本を全部、伐採しても足りないくらいの生産量になるそうです。それも外部資本にではなく、地元の資本に仕事を発注して、その方たちも潤う、地元にあったエネルギー、しかも売電ではなく自給するエネルギーを目指すべく、今、再生可能エネルギー部会では、江口理事が鉛筆なめなめ一生懸命、調査研究費を工面して、置賜地区にふさわしいエネルギーの研究にあたっています。地産地消推進でいうと、「土と農に親しむ」部会と「食と健康」部会が、一体化する可能性が極めて高いです。それぞればらばらに活動していますが、この分野を突き詰め

ると、地域資源、循環農業に行きつきます。ですから、「資料」に示されているように、今は8つの部会に分かれています、事業上は全部取りまとめたひとつの部会としての事業をやる可能性も、現段階では強くなってきています。

「土と農に親しむ」部会では、ほとんどの家庭で家庭菜園を営むことができないかと検討しています。ただ、マンションやアパート住まいの方もおられるので、余っている田畑を利用させてもらうなどして、市民農園も推進していく必要があります。こういうことを私たちは「住民皆農」といっています。ロシアのダーチャをモデルにしつつ、ダーチャほど大きくなくてもいいので、小さいながらもそういうことができる仕組みづくりを模索しています。

機構の会員構成についてみますと、現在、会員309名中、個人会員正会員243名、団体28社、賛助会員は個人34名、団体4社です。中でも飯豊町役場は、町長をはじめ部長クラスも入っていますし、団体としても入っています。一番の難関は米沢市とJAおきたまです。JAおきたまには最初に声をかけて、準備会の段階から会議に入ってもらいましたが、やはりなかなか難しい。組合長は「あそこは社会運動の場だ」と言っているそうですが、その通りなのです。JAにとっても最高にいい社会運動ではないかと思いますが、どうも毛嫌いされています。

もうひとつ、うちのメンバーに、参議院会派の「みどりの風」に所属していた舟山康江・元議員がいます。TPP反対で安倍首相に食ってかかった人です。一昨年の参議院選挙で、安倍首相自ら、徹底して置賜地区を攻めてきて、舟山さんは落選しました。山形県のJAもTPPに反対でしたから、各JAはそれぞれの地域で舟山さんの後援会に入り、「反自民」で押していったので

すが、なぜか置賜地区のJAだけは地域の一般的な後援会とは別に、JAおきたまとしての後援会を作りました。私は、あれは自民党に対しての保険だったと思っています。案の定、わずかな差で舟山さんは敗れ、大沼瑞穂という東京財団出身の、自民党の落下傘候補が当選しました。山形県は選挙までもがフランチャイズなのです。

今年10月に山形市長選がありますが、その候補者も東京財団から下ってきます。今、山形県の政治を牛耳っているのは、この間、オリンピックの担当大臣になった遠藤利明さんで、大臣になったから山形市長選には大きな影響がでてくるものと思います。そして、1年半後の山形県知事選でも、自民党は何とか候補者を立てて、今の吉村美栄子知事を落とそうとするでしょう。吉村知事は、政治は素人ですが農業に非常に一生懸命で、我々の感覚でいろいろなことをしてくれます。置賜自給圏に対しても、菅野さんが話しに行った時は相手にされなかったのですが、影では一生懸命やってくれているそうです。農林水産部長が、我々をバックアップしてくれて、いろいろな情報を流してくれています。そういういい状況が続けていくためには、なんとか反自民でやってもらいたいと私は思っています。そうは言ってもうちの顧問には、鈴木憲和さんという、元農林水産官僚の自民党代議士もちゃんと控えてはいるのですが。

8つの部会には、希望する会員の方たちがそれぞれ入って活動をされていますが、実際に活動に参加されている人たちは、一部会当たり10人前後です。ですから80人から100人ぐらいの人たちが、毎月いろいろな活動をされているということです。

2. 置賜自給圏の役割

つぎに、私が思っている置賜自給圏の役

割についてお話ししますが、これは他の人の考えとは少し違うので、私見として聞いていただきたいと思います。

まず、私はこれを「第7次産業化」と言っています。置賜地区は雪国ですから、冬は野菜を漬物にしますし、みそやしょうゆもほとんど自家製で、もともとは6次産業の町だったのです。6次産業では、助成金を使って、いろいろなものを研究・開発していますが、成功事例はあまり聞いたことがありません。

私はそれをもって、外に対して打って出る、ないしは生産者ももっと工夫して、複数の生産者がつながることで、さらに別なものを作ることが必要だと思います。その中での我々の役割をキーワードでいうと、「パブリック」、「パートナー」、特に「プロデュース」や「プロモーション」が我々の役割かなあとと思っています。我々と一緒にやることで、唯一の「プレミアム」（付加価値）がつくような、もうかるだけではなく、内容的にも誰からも後ろ指をさされないものを作りだしていきたいと思っています。そして「ポジション」、ゆるぎない場を作った上で、「パワー」をもって「プラン」を進めるのが、我々の第7次産業としての役割です。

我々が役割を果たしていくにあたっては、置賜自給圏には生産者や業者、市民、自治体が入っていますから、ここがどうやって結びつくかということが問われます。うちのメンバーもそうですが、皆さんどうしても、自治体に顔が向くのです。「自治体が金を出せ」「自治体はもっとこんなふうにしる」と言うのですが、私だけは「民間」と言っているのです。民間が動かないと自治体は動きません。

先日、あるコンサルタントの方が、突然、「道の駅」のことで相談にいられました。

うちのもうひとりの代表で、山形大学工学部の大学院の高橋教授と親しい方なのでそうですが、今度、福島～米沢間を30分で結ぶ高速道路ができ、その間に道の駅を作ることが、国土交通省で決まったのです。高速だけではなく、下の一般道を走っている人たちも利用できる道の駅で、全国でもあまり例がないものです。ただ、全国に1100近くある道の駅で、採算ベースにのっているのは2割、200軒あるかないかだそうです。20億円使って、最大に注目されるものを作りたいということで審査が通り、米沢市がどういうものを作ってどういうことをやりたいか、聞きに行ったところ、「JAさんに任せようと思っています」と言われたそうです。JAに丸投げしてしまうと、朝市みたいなものやって終わってしまう。コンサルタントの人は、どんなものを作っていいかわからず、困ってしまって、うちに来たというのです。じっくりいろいろなメンバーと話をされ、ぜひ我々もメンバーになってほしいという話で、そうになったのですが、つまり今、自治体そのものに、ものを考えられるだけの人がいないのです。私は、結論から言うと、そこで鍵を握るのは生協だと思っています。

自治体が地域の発展を願っていることは間違いありませんが、何をしたいかわからないようです。ベンチャー起業と雇用を考えて助成金を持ってくるなど、いろいろなことをやってはいるのですが、なかなかうまくいかない。その時に私は生協の可能性というものを感ずるのです。というのも、生協はこれまで、地域を作るコーディネーターの役割を担ってきたからです。「産学協」という新しい産業の形態を模索するべきではないか。「協」というのは協同組合のことで、ここには「農協」も入りますが、極めて大事なものは「生協」です。この

中で新しい経営者を誕生させるわけですから、誘致費用は要らないのです。そのことによってベンチャー企業と雇用が司られるのではないのでしょうか。

その基本は、人間らしく生きることだと思います。今までは経済優先主義で、いかに付加価値を高くして値段を安くするかを追求してきましたが、人間らしく生きingことを基本とする、これができるのは生協にしかないだろうと。

そして、中小の基幹産業がたくさんあった方がいいと思います。大企業がどんとあった場合、どんなことが起きているかというと、水俣のチッソを思い出して下されば分かります。そのチッソが、水俣病という事件をひとつ起こしただけで、水俣の町がどうなっていったか。ただ水銀で侵されただけではなくて、患者同士がいがみ合う町になってしまった。

それと同じようなことが今、福島で起きています。原発事故以来、あそこにはもう人が住めなくなっています。しかしそういう状態になっても、住民が皆、原発に反対しているわけではありません。よく聞くと、「もう一度原発を稼働してもらいたい」と思っている人たちも、かなりの数いらっしゃいます。生まれた時から東京電力のお金によって町が栄え、個人の所得が福祉として返ってきて、個人の口座にいくらかのお金が定期的に入ってくるからです。そういう育ち方をすると、そういう考え方になってしまうのです。一方同じ福島でも、二本松や福島市や郡山市など、ホットスポットがあって、子どもたちの健康を考えれば住むのは危険だと思っている人たちがいる。その人たちは身銭を切って、米沢をはじめ全国各地に移り住んでいるのです。この違いです。そして同じ福島県の人々が、「原発近くの住民たちは危険を承知して誘

致していたんじゃないですか」と言うのです。こんな残酷なことはありません。

なぜそんなことになったかというと、水俣とまったく同じ構図で、大きい基幹産業がその町を牛耳っていたからだと、私は思います。そうではなくて、500人規模の中小の基幹産業がたくさんあった方がいいのです。

私がこちらにお邪魔する時、米沢駅でセゾンファクトリーというジャム会社の会長とばったり一緒になりました。セゾンファクトリーは今、テレビ番組や経済誌などでも特集で取り上げられている、高畠町のジャム屋さんです。後発の小さなジャム屋さんが、今なぜ注目されているかというと、首都圏の大きいデパートや駅で、おしゃれなデザインのジャムを販売したところ、馬鹿みたいに売れていて製造が追いつかないのです。工場には、地元の小学生や中学生がどんどん見学に来ます。今、380人が勤めているそうです。会長が言うには、自分はこうして外に出て、セールスに歩き、庄内銀行の常務を退任された方に中に入ってもらっているけれど、働く人たちを取りまとめて技術を磨く人というのは、本当になかなかいないのだそうです。小さくても地元で頑張っている企業が、雇用を創出すべきだと思いますし、その鍵を握っているのは生協だろうと思っています。

3. 持続可能な地域経済を求めて

持続可能な地域経済のためには、まずは「企業誘致」という幻想を何とか改めないといけないのではないのでしょうか。いつの間にか企業誘致が当たり前になって、皆が労働者になってしまったのです。チッソとか原子力発電所といったビッグバンの誘致企業が入ってきて、イオンやヤマダ電機という流通が入ってきて、地元のお金が皆、

吸い取られていく。落ちるばかりではなく、吸い取られていくのです。

今や農家が野菜をスーパーで買う時代です。本当に笑ってしまいますが、置賜には「当用野菜」というものがある、10月下旬から11月にかけて、大根や高菜、白菜などを、各家庭で洗って干して漬物にします。我々はその注文を受けて、各家庭に配達するのですが、年々、農家への配達が増えています。「自宅で作らないのですか」と言う、「赤字になるから作らない、買った方が安い」と。こんなことを言わせていいのかなと思います。経済優先主義というのは、一步間違えると、そうやって文化を無くしてしまうことになるのです。菅野さんが、いくら土づくりがどうのこうのと言っても、土を作る人がいなくなってしまう。

日本はもともと家業から始まり、1人ひとりが経営者であり職人であり芸術家でした。そうして町が形成されて、町内や隣組で助け合いがあって、自治を作っていたはずなのですが、自治が無くなっています。だから、私はもう一度、ベンチャー企業でも、新しい試みでも何でもいいから、やはり皆が職人になったり芸術家になったりすべきだと思うのです。

置賜地区では今、林業が壊滅状態です。隣との仕切りも含めて、きちんと分かる人といえは80何歳の人しかいない。所有していても、皆、県に全部委託しているものですから、どこが境か分からない。しかも家を建てる場合も、ほとんどがハウスメーカーになっていて、外国の木材がどんどん入ってきています。私の恩師の校長先生が、昨年、自分の山の木を切ってもらって家を建てました。「親父も自分の山の木を切って家を建てた」というのが自慢でした。校長先生は、杉で有名な山形県最上郡金山町の工務店が建てたのですが、「先生、今の

家はお宅の木じゃありませんね」と、家に入ってすぐに言われたそうです。見ると分かるのだそうです。今度は山に連れて行って、木をひとつずつ見て、「これは使えます、これは駄目です」と言われたそうです。柱にするにも、木の成長状態を考えないといけないのですが、ハウスメーカーの大工さんというのは、その理屈も分からず、どんな木を使っても平気ですから、どうしても弱い家になってしまう。しかも校長先生の場合は、自分の山の木を使ったので、費用もそれほどかかりませんでした。職人がいなければ自然も減びますし、自分たちの町にお金を循環させて落とすことができません。置賜でも、金山町の工務店の人たちのように、理屈をちゃんと飲み込んだ職人を作っていないといけないという話も、水面下ではしています。

4. 利益が丸ごと地域に還元される 経済システム

利益が丸ごと地域に還元される経済システムは、生協でこそ実現できるのではないかと考えています。実はこれが、私が狙っている置賜自給圏です。まずは生協、生産者、業者、住民らの出資による株式会社の店舗の開発です。生協が100%出資するのではなく、意識的に取引業者とか生産者、組合員以外の住民にも出資してもらって新しい会社を作り、そこで店舗開発をできないかということです。

コンビニ開発こそ、生協でやるべきだったと思っています。いいか悪いかはさておき、震災時、特に宮城にはたくさんの自主避難所がありました。公の避難所に行けない人や、どこが公の避難所か分からない人たちが、自分たちで固まって自主避難所を運営していたのです。我々は物資を持って行った時、壊れたコンビニの前で荷下ろし

をしましたが、間違いなく、コンビニの前には人が来るのです。住宅地にも近く、ひとつの拠点、目印になります。セブンイレブンでもどこでも、いち早くヘリコプターで物資を持って行きましたが、宣伝しか考えていないから、公の避難所に持って行っているのです。本来ならば、フランチャイズで日常的にお金を吸い上げているところに持って行くべきでしょう。そういう意味で、コンビニ開発というのは、ある意味では生協にとって必要なのではないかと思います。

3番目、障害者や高齢者も働くことができる、かゆい所に手が届く商品開発ができるのも、生協ではないかと思います。

共同購入のシステム開発と配送センターの利用、これも私は震災でつくづく思ったのですが、東日本大震災の時、うちは一部の欠品を出しましたが、共同購入はほぼ稼働していました。しかし、隣の共立社の場合は仙台がメインで仕分けをしているので、休みのところもけっこうあったのです。その時思ったのですが、たとえばうちの共同購入のセンターのシステムが、共立社なりいろいろな生協と同じだったら、組合員コードと商品コードを入力するだけで仕分けができるのです。そういうシステムが開発されていたら、お手伝いできることがあったでしょう。全国のいろいろな生協と拠点を、介護保険システムのように、班活動も組合員活動も含めて、同じシステムにしてしまう。そうすると、災害が起きた時にパルであろうと生活であろうと市民生協であろうと自然派であろうと、商品をそこに持って行く、ないしは代替商品として他のものと置き換えることが、協同組合間協同でやれるのではないか。そのくらい大胆な戦略を今、我々生協陣営は持つべきではないかと思っています。確かにボランティ

アに行くことも大事ですが、やはり食品や生活用品がすぐに欲しい人は、山ほどいる。生協だからこそ、いち早く届けることが極めて大事ではないでしょうか。そのためにも、共同購入のシステム開発が大事なのです。

これは自給圏にも言えることであって、私は自給圏にコンビニの方たちにも入ってもらいたいと考えています。ファミリーマートにはもう入ってもらっていて、駐車場を使って朝市をやらせてもらおうかなと思っています。朝市の販売分を売り上げに入れてしまうと、フランチャイズなのでいろいろな規制がかかってくる可能性もあるので、駐車場を使わせてもらった謝礼を払うというやり方で、何とかしてみたいと思っています。うちの渡部代表と高橋代表は「自給圏コンビニを作れないか」と言っていますが、いずれそんな日も近いと思います。

5. 生協の役割・可能性について考える

生協が大資本に対抗できるポイントは、非営利、公益、教育文化、流通、福祉、地方自治、消費者、出資、運営、利用などです。そして市民資本による最も新しい「自治体事業」の設立です。形態は、社会福祉法人、株式会社、ワーカーズ、一般社団法人など、さまざまなものが考えられますが、私たちがやることによって、「市民資本」という、まったく新しい概念の中で、大資本に対抗することができます。また、提携生産者への共同出資による新しい「魅力ある店舗」づくり、あるいは生協の店舗だけでなく、生産者が独自に出店する場合や工場を作る場合などに出資し、そこに新しい市民資本を導入する。こういったことによって、対大資本を実現できる可能性があるのではないかと思います。

私は、生協の皆さんには、自分たちはもっとも社会的な存在であり、時代の先端を歩

んでいると思っていただきたい。自治体とかかわりをもって、自治体に対する「もうひとつの提言者」として、独自に提案することがきわめて大事なことです。私は山形県の行政改革委員会のメンバーになって、今年で4年目です。けっこう問題発言をしているのですが、辞めさせられることもなく、真面目にきちっと受け止めて下さって、改善に結びついています。

まちづくりを基本とした店舗戦略や共同購入戦略を作ること、生協の新しい役割ではないかと思います。さらに進んで、町の利益が地域を循環する仕組みづくり、組合員以外の住民が何らかの形で生協関連の事業に関係していく仕組みづくりも、したたかにやっていただきたいと思います。

Ⅲ コメント

中嶋陽子(大阪市立大学特別研究員)

グローバリズムの貫徹によって生み出された格差の広がりや深まりはとどまることを知りません。そしてそれにともなって求められるこれを修正する社会サービスに対するアクセスや社会参加における障害や不利益が増大しています。私の関心は、市民社会の内部、その縁辺部、外部に沈殿、滞留する困窮者の再度社会への包含を意図する「社会的包摂」についてです。

この関心に沿って一つだけ提案させていただきたいのですが、機構がめざす「もうけを最大限地域に還元させる地域経済の仕組みづくり」の基部に「貧困や困窮が人と人とのつながりの中で自然な形で解消する仕掛け」をつくっていただけないかという点です。資料「地域資源を基礎にした“置賜自給圏推進機構”に関する基本的な考え方」の「自給構想の柱」、「事業内容」から明らかなように、機構はきわめて多様な役

割を担い、大きな可能性と同時に実現に向けての具体化方策が準備されているように思います。大いに期待させていただきたいと思います。

Ⅳ 座長まとめ

すでにタイムリミットをはるかに超えておりますので、直ちに閉会したいと思います。資料「地域資源を基礎にした“置賜自給圏推進機構”に関する基本的な考え方」をご覧ください。「産直や地産地消の延長線上に位置づく食と農、エネルギー、住宅、教育の自給をめざす新しい地域づくり」というベクトルの中で、フロアの皆さんにディスカッションに参加していただけたらよかったと思っています。

まとめとして4点申し上げておきたいと思います。一つは、「自給圏」という言葉についてです。言葉自体としては、内橋克人さんの「FEC 自給圏」(Fは食料、Eはエネルギー、Cはケア福祉)の構想があるくらいで、あまり市民権を得ているわけはありません。しかし解題で申し上げましたように、まだ構想の段階であるにもかかわらず、私たちが自給圏に注目した2つ目の理由は、それが産直、地産地消の延長線上に位置づくものではないかという仮説をもっているからです。

二つには、機構の発会式での、島根県海士町長の記念講演の演題が「若者が移住してくる離島」というものであったことからもうかがえるように、機構には「新規住民を受け入れる」という強い思いがあるという点です。したがって、それを受ける独自の部会があってもいいのではないかという点です。もうすでに家を建ててもっとも先進的な取り組みを準備されておられるのが飯豊町だと理解しています。

三つには、農業協同組合の参加の課題です。昨日のシンポジウムで、コープ愛知も広島生協連も農協の位置づけをされておられ、非常に参考になりました。先ほど政治がらみのお話があったとおり、参院選が終わった直後に農林水産省が独禁法違反の疑いでJA おきたまに圧力をかけてきたという周知の出来事がありました。「仕返し内閣」みたいな性格の政権ですから恐ろしいのですが、そういうこともあって農協が地域で非常に神経質になっている状況があります。それに、「自給圏」という言葉のどこに農協が魅力を感じるかと考えると、産地型の農協ですからもうすこし枠組みを広げてお誘いする必要があるかなと思います。「もうけを最大限地域に還元させる仕組みづくり」をテーマとしてかかっているわけですから、そしてその中心に座るのは農業や林業ということになるわけですから、そういう説得で迫ることが重要ではないでしょうか。機構とも深い人脈でつながっている農協ですから、私はいずれは加わっていただけることになるだろうと思っています。

四つには、フロアからもコメントをいただきましたので、機構が株式会社の店舗をつくるという発言についてふれておきたいと思います。協同組合陣営が株式会社の店舗をつくることはいわば自己否定ではないかということになります。井上さんは本日のご報告からもうかがえるように大変既成概念にとらわれずに自由な発想を大切にされておられる方ですから、壮大な思いがあつての発言かなと思っています。「店舗を株式会社で」という考えには、ひょっとするとつぎのような二つの思いが込められているのかもしれませんが。店舗にのめり込むのは止めてもっと組織購買、共同購入に集中すべきで、店舗なんか株式会社に任しておきましょう、というのが一つ。もう

一つは、物の購買のところの形態についてはこだわる必要はないのではないか、生協にはもっと高度なミッション、役割があるでしょう、たとえば置賜自給圏機構のような。この点については、さらに議論を深めなければなりません、時間切れです。

大変、進め方がまずくて、がまんしてがまんして、ついに発言できなかった人たちがたくさんおられるのではないかと申し訳なく思います。これで閉じさせていただきます。

V 第2分科会に寄せられた感想文

寄せられた感想文からは大きくは2つのご意見をいただきました。

一つは、消化不良、置賜自給圏機構がやろうとしていることが具体的に見えてこなかった、座長（解題者）、報告者、コメンテーター、ともに時間を守れ、それぞれ自らに与えられた役割を自覚して振る舞え、というものでした。

二つは、自由な発想で興味深かった、協同組合と地域との連携によるバリューチェーンの形成」がわが生協で進めている事業と関連付けて理解することができてよかった、地域での具体的な取り組みの参考にしたい、というものでした。

第一の「消化不良」等のご指摘は、誠に指摘通りというほかはなく、座長として責任を強く感じております。また、座長のタイムキーパーとしての責任は大きく、第2分科会参加の皆さんには大変申し訳ないことをしたと深く反省しております。提出された感想文の数が少なかった点にも、「消化不良」の参加者の意向が込められているものと感じているところです。

資料

地域資源を基礎にした「置賜自給圏推進機構」(仮称)に関する基本的な考え方

置賜圏内の多くの組織・有志が集い、置賜の地域資源と人々の暮らしを繋ぐ「循環型地域社会」を構築するため、新しい地域のあり方を考え実践しよう！－山形 置賜から世界へ情報発信－

學

背景と趣旨

自給圏構想の柱①

構想推進体制□□

附录

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

【地域を取り巻く環境】 □□
どの自治体も、地域活性化
や地域振興に関する多様な□□
取り組みを実践してきたが、□□
厳しい状況□□

☐ □
□ ↑
☐ □

結果】☐ 国内中小零細企業、家族☐
農業、地域経済の先細り☐

打開策に関する一つの提案】
置賜を一つの地域ととらえた「自給圏」の設定

提案の基本的な考え方】④ エネルギーと食、住の圏外

依存度の削減□

② 圏内の豊かな地域資源□
を活用し、産業を興し、雇用□
を生み、富の流出を防ぐこと□
による地域経済を好転・持続□
化□

↑□
□

「循環型地域社会」
の構築□

① 地産地消に基づく地域自給と②
③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

農林水産物の率先利用□

② 高島町に先駆けて取り組んでできた□
高島町の有機農業。人にも環境にも□
も負荷が少ない。特就可能な循環□
型農業を核として取り組むことによ□
る安全・安心な置賜の食の実現□

① 教育の場での実践 □
平成26年4月に開学した県立米田
沢実業大学や置賜農業高校等と
行政施策などの連携・システムの構築 □
② 学校の田畑、地域農家の活用 □
による作物・調理を学ぶ教育実践 □
の場としての活用 の推進 □

② 上記の取り組みの実践を通して
 健康長寿による医療費削減の世
 界モデル構築への挑戦

1 推進組織の設立 □
「置賜自給圏推進機構」(仮称) □
□
(1) 想定される構成団体 □
行政(山形県、3市5町)、 □
教育関係(教育委員会、大学、 □
高校、幼稚園・保育園ほか)、 □
農林業団体(JA、NOSAI、 □
農協、土地改良、森林組合) □

加農、工・農団体、森林組合、
 エネルギー団体、企業、
 病院、医師会、歯科医師会、
 青果団体の生協、スーパー、
 商工団体、観光協会、
 飲食業組合、旅館組合、
 社会福祉団体、施設、
 生活改善推進団体、
 消費者団体、市民団体、
 NPO、個人賛同者、その他

(2) 役員体制

① 代表理事(専任)

② 代表理事(兼務)

③ 代表理事(兼務)

② 理事(入会事務理事)□
③ 監事□
④ 顧問□
⑤ アドバイザー□
⑥ 応援団(外部有識者)□□

6月下旬に、一般社団法人化をする

再生可能エネルギー部会 ① 再生可能エネルギー賦存量の調査
② 圈内自給率の目標に関する調査
③ システム導入のための研修会
④ モデル実証取組への支援及び
⑤ 再生可能エネルギー生産の障

① 品目別圏内生産量と消費量の差
② 圏内及び域外生産物の流通量
③ 学校給食及び医療施設における
④ 学校給食における地元農産物

⑤ 地元小売店における園内展
課題の整理□

⑥ 旅館・飲食業・食品加工業に
拡大に向けた課題の整理□

⑦ 生産者サイドにおける課題整理

① 有機農業の現状調査(農家数
② 3市5町別モデル農家実証圃
③ 普及推進に関する課題整理

土と農に親しむ部会(身土不)
普及展示圖及び講座の開設
② 置賜伝統野菜の普及と種子の
食と健康部会 ④
① 農医連携の普及と口
食と健康に関する講座(米沢菜)
※ 一食全食の調理方法(ま
栽培方法別別業業の調査研究
③ 加工(漬物・干物)講座による

■ ための情報交換と田

実態調査 □
設定と工程表の作成 □

物の取扱数量の実態と

及)

□□ 及など) □□

農業高校等) □□

4

住民の主体的行動による地域再生□□
ひとり一人のちよつとした知恵と行動□□
による自立した雇賜□□